

# 栃木県内における「道の駅」の 取り組みについて

国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課

## 【はじめに】

栃木県は、関東地方の北部に位置し、日光国立公園やロイヤルリゾートの那須など自然や文化に育まれた名所を有しています。

農業では、いちごや二条大麦の生産量は全国1位。さらに北海道に次ぐ酪農王国としても知られ、生乳生産量は、全国2位のシェアとなっています。

また、産業では、首都圏に位置する地理的優位性を活かし、バランスのとれた産業活動を展開し、製造品出荷額が全国第11位など全国有数の産業県となっています。

その一方で、山村地域や中山間地域では、人口減少、高齢化等の課題を抱えており、積極的な振興施策を展開していくことが重要となっています。

## 【栃木県内における道の駅の現状】

「道の駅」は平成5年の制度創設以来、現在では、全国で1,059箇所広がりに、地元の名物や観光資源を活かして、多くの人々を迎え、地域の雇用創出や経済の活性化、住民サービスの向上にも貢献しています。

栃木県では、平成8年に道の駅「もてぎ」が栃木県第一号として登録されて以来、現在までに23箇所が登録され、各「道の駅」の様々な取り組みにより、地域の雇用創出や経済の活性化に貢献しています。

また、栃木県内の「道の駅」共通のオリジナル商品を各「道の駅」で販売するなど「道の駅」間の連携・交流も図っています。

最近では、平成27年4月15日に道の駅「日光」が新規に登録され、4月23日に登録証の伝達式、4月27日にオープン式典が行われたところであります。

この道の駅「日光」は、日光杉並木街道に代表される3街道（日光街道・会津西街道・

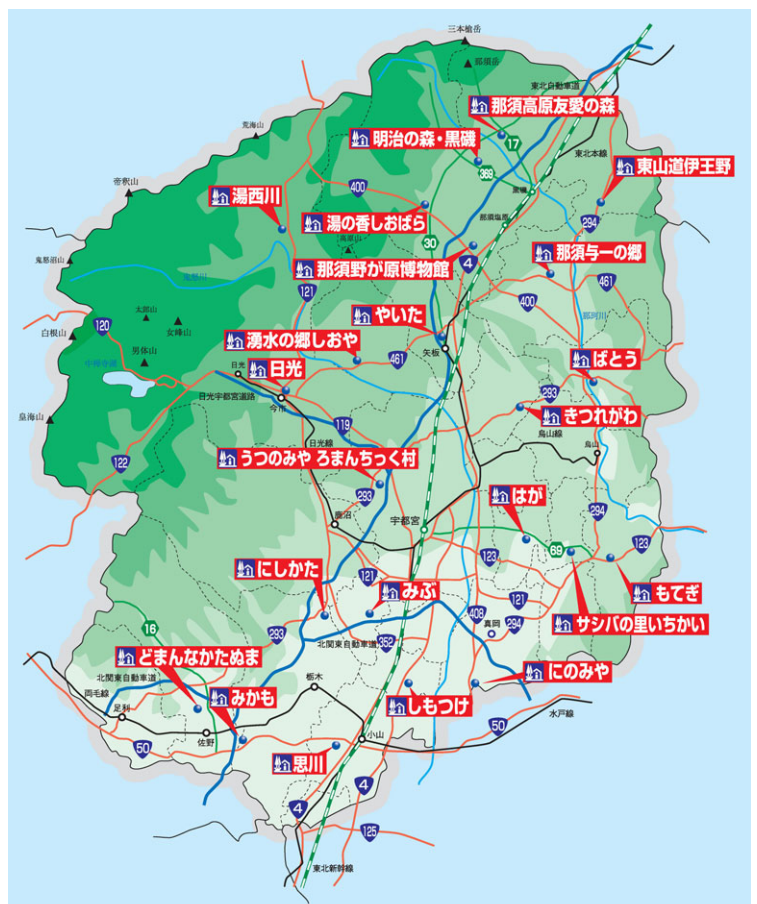


図1 栃木県内の道の駅

例幣使街道)が合流する主要な結節点として、交通上の要衝に位置する中心市街地にあり、世界遺産に登録されている「日光の社寺」や鬼怒川の観光拠点の玄関口、経由地として観光情報館内で目的に合った観光案内を日光市観光協会のスタッフが窓口で直接ご案内し、当該施設を拠点とした新たな観光ルートとして魅力を伝える施設づくりを進めています。

また、商業施設では、日光地場産の野菜の直売を行うとともに、今後は、日光地場産を活かしたオリジナル商品の販売なども予定しています。



写真1 伝達式の様子



写真2 道の駅「日光」

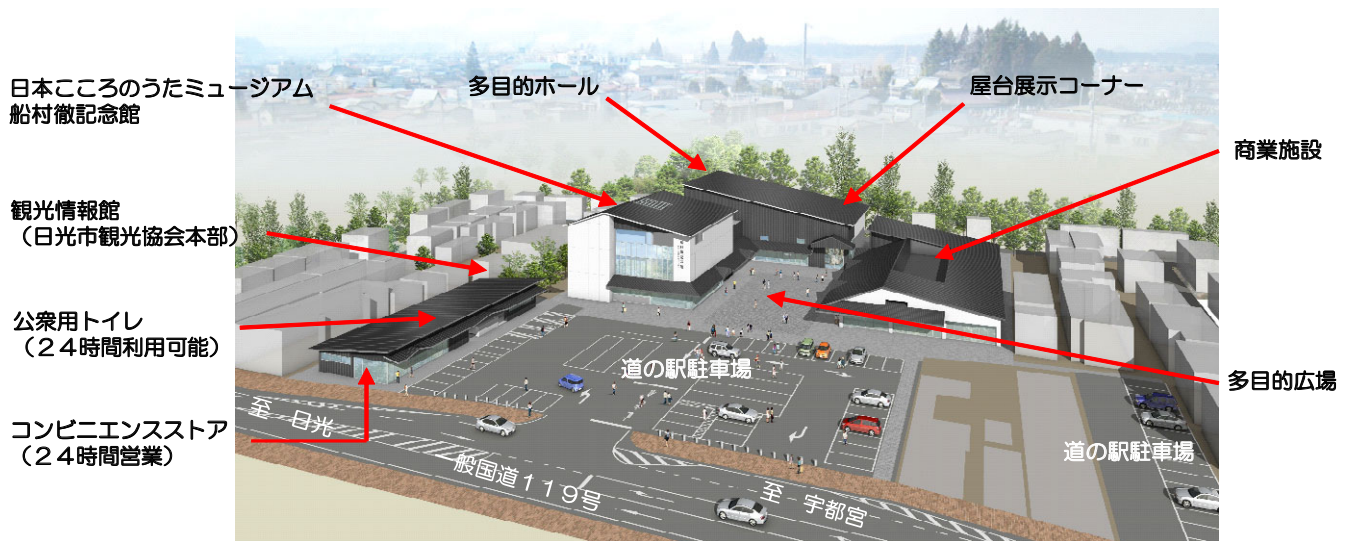


図2 道の駅「日光」全体図

## 【地方創生の核となる「道の駅」の取り組み】

国土交通省では「道の駅」を経済の好循環を地方に行き渡らせる成長戦略の強力なツールと位置づけ、関係機関と連携して特に優れた取組を選定し、重点的に応援する取組を実施しています。

本制度では、設置から一定年数以上経過し、地域活性化の拠点として、特に優れた機能を断続的に発揮していると認められる道の駅を『全国モデル「道の駅」』。各道の駅から企画提案があり、今後の重点支援により効果的な取り組みが期待される道の駅を『重点「道の駅」』。企画の具体化に向け、地域の意欲的な取り組みが期待される道の駅を『重点「道の駅」候補』として分類しています。

なお、全国では、『全国モデル「道の駅」』が6箇所、『重点「道の駅」』が35箇所、『重点「道の駅」候補』が49箇所選定され、そのうち栃木県では、道の駅「もてぎ」が『全国モデル「道の駅」』に、「那須高原友愛の森」が『重点「道の駅」』に選定されました。

道の駅「もてぎ」は、平成8年に開業以来、当初は、道路利用者のための休憩施設や地元の観光情報の発信という役割が目的でありましたが、20年近くが経過し、今では、柚子、エゴマ等の特産品を加工する「もてぎ手づくり工房」を整備し、「道の駅」を核とした6次産業化を進めています。また、地域ならではの地場製品の提供、真岡鉄道のSLやサーキットなどの地域の魅力ある施設へのアクセスポイントとして、そして、地域センター機能とゲートウェイ機能を兼ねるにぎわいの核として定着しています。

また、「道の駅」の従業員92名のうち、地元雇用が約9割（H27年3月末現在）を占めており地域の雇用創出にも大きく貢献しています。



写真3 道の駅「もてぎ」全景



写真4 特産品（柚子）の加工の様子



写真5 オリジナル商品とゆるキャラ「ゆずも」

さらに、既往災害（昭和61年洪水）の教訓から災害時の避難場所や備蓄、地域に根ざした防災啓発を目的とした「茂木町防災館」を備えており、防災井戸も設置されています。



写真6 「茂木町防災館」でのセミナーの様子



写真7 防災啓発



写真8 防災井戸

道の駅「那須高原友愛の森」は、年間約480万人が訪れるロイヤルリゾートの那須に位置し、「道の駅」には、年間約67万人が来場しています。

当駅は施設利用にとどまらず、那須町観光のゲートウェイ機能としての役割も待っており、今後は、「道の駅」の更なる機能の強化を図るべく、外国人観光客のニーズにあったサービスの提供（免税店や無線LANの整備等）、旅行業の登録や観光協会の本部機能の設置などを予定しており、年間利用者100万人を目指しています。



写真9 道の駅「那須高原友愛の森」

また、東日本大震災の教訓を活かし、地域のみならず観光客や県外からの避難者の防災拠点化とすべく「防災館」の設置なども予定しています。



写真10 東日本大震災の際、情報館を総合案内所として活用

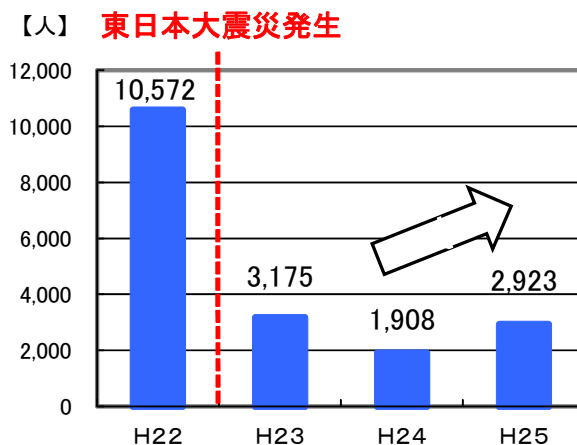


図3 外国人宿泊者の推移

(東日本大震災発生後、外国人宿泊数が減少していたが、平成25年から増加傾向。平成26年は、6月末時点で昨年度を上回っている状況。)

## 【大学と「道の駅」との連携】

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、栃木県宇都宮市にある文星芸術大学と道の駅「はが」及び宇都宮国道事務所3者で連携企画型の実習に取り組んでいます。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに「道の駅」が地域活

性化の拠点を目指して進化を遂げるため「道の駅」と大学がお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。

実施内容は、学生が花火大会のポスター制作や道の駅で販売する町特産品の『梨ワイン』のラベル作成、「ゆるキャラ」を使用した「道の駅」オリジナルグッズの商品開発等に取り組むこととしており、道の駅「はが」山崎駅長は、『大学との交流・連携により、学生の創作研究の向上、地域貢献、キャリア教育の向上等に期待しつつ、道の駅だけではなく芳賀町全体の地域資源の再発見と発展に期待しています。』と事業の将来性に夢を馳せています。



写真 11 花火大会の様子



写真 12 特産品の梨「にっこり」



図 4 ゆるキャラ  
「はがまるくん」

また、他に就労体験型（インターンシップ）の取り組みも進めており、今年の3月に栃木県内の3大学（宇都宮大学、文星芸術大学、佐野短期大学）と全国「道の駅」連絡会が就労体験型の基本協定をそれぞれ締結しているところであります。

## 【おわりに】

「道の駅」は当初、通過する道路利用者へのサービスが中心でしたが、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みがなされておりますが、今後も「地域の拠点機能の強化」や「ネットワーク化」を進めながら、「道の駅」がより、魅力的な施設となるよう地域と連携した取り組みを進めていきます。

そして、「道の駅」の「開かれたプラットホーム」であるという特長を活かし、関係省庁などとも連携して、様々な施策を展開していきたいと考えています。